



Sustainable Society Design(SSD) 3rd Year High School Class



リサーチブック改訂と新課題図書

本年度より本校は、文部科学省の WWL(World Wide Learning) コンソーシアム構築支援事業の拠点校となり、プログラムのテーマをこれまで SGH で取り組んできた環境問題から発展させ、環境に配慮した理想の街の探求をテーマに、「街づくり」としました。引き続き「グローバル人材の育成」を目的とし、新しいテーマに取り組んでいきます。

そのため、この講座の名称は Sustainable Society Design (SSD) となりました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、3 月に予定していた海外研修がキャンセルとなった生徒達。大幅に状況が変わったものの新学期に入りオンラインで受講をしてきました。担当は帖佐香織教諭と佐藤友亮教諭です。2 年生から継続しているプロジェクトは、ドイツとデンマークについてのリサーチブックの改訂です。環境先進国のこの 2 国の他に、地元の京都も加え、グループで基本情報、交通、発電、廃棄物などの分野ごとに分かれて、教員の指導のもと、改修、編集の作業を行っています。また、オンラインでの受講期間中に新たな課題図書として以下の 8 冊が提示され、リサーチブックの改訂と平行して、課題図書をもとに卒業論文作成の練習もしていきます。

【SSD 課題図書】

島村菜津『スローシティ』光文社新書

日本を覆っていく閉塞感の一つとして、生活空間の均質化があげられるという著者。実はこれは私もずっと思っていたことで、日本では地方=都会の劣化版のように感じてしまいましたが、ヨーロッパでは、それこそフライブルクなどのそこまで大きくない街(寝屋川市と同じくらいの人口)や、第三の都市ミュンヘンなどでもとても素敵なのです。(帖佐)

中島健祐『デンマークのスマートシティ』学芸出版社

日本の産業資本主義に対し、デンマークの人間中心主義、そしてデータを活用した人間中心の街づくりとは何なのか、といったことを追求した本。私がコペンハーゲンに行って驚いたのは、街がコンパクトで機能的、そして何よりそこに住んで働く人々が、みんな感じがよく、自分の仕事や生活を楽しんでいるように見えたことです。(帖佐)

山崎満広『ポートランド 世界で一番住みたい街をつくる』学芸出版社

ポートランドは、アメリカの中でも、スターバックスなどの大企業を排除して、環境に配慮しながらクリエイティブな街づくりを目指しています。行ったことがないので分かりませんが、小さいけどオシャレなカフェなどもたくさんあるようで、人々は自転車によく乗っているようで、これはデトロイトやロスなどで見たアメリカとは全然違う、と思いました。ブルックリンと雰囲気に近いのかと勝手に想像をしています。(帖佐)

ヴァンソン藤井由実『ストラスブールのまちづくり』学芸出版社

研修で行く予定だったストラスブール。トラム導入によって衰退した街を蘇らせたというような本で、実際にストラスブールはとても素敵な街です。トラムの美しさにも感動したのですが、坂下先生は何が良いの？と言っていたので、単に個人の趣味なのかもしれません。ドイツとフランスが領土をめぐって争い続けたアルザス地方の都市ですが、地産地消にも熱心な、パリともフライブルクやミュンヘンとも違う雰囲気です。(帖佐)

ジェレミーリフキン『グローバルグリーンニューディール』NHK出版

ジェレミーリフキンはとても有名な経済評論家で、OECDなどでも自らの主張を提言し、メルケル首相も影響を受けたと言われています。とても有名な本なので、この著者の『第三次産業革命』を読んだことがある人はいるかもしれません。(帖佐)

森まゆみ『環境と経済がまわる、森の国ドイツ』晶文社

エネルギーとエコロジーをどう両立するか？その視点で著者がドイツを取材した一冊。フライブルクの事例なども載っていてなじみがあるか。比較的まとめやすい。(佐藤)

日端康雄『都市計画の世界史』講談社現代新書

古代から現代までの都市のでき方、歴史的にどのように都市は形成されてきたのか？その意図を中心にまとめています。ヨーロッパや日本、アジアまで、その形成の理由を知れば今を見て、変えるヒントになるかもしれません。(佐藤)

平本一雄『世界の都市 5大陸 30都市の年輪型都市形成史』彰国社

世界都市の都市が形成されていく過程をわかりやすく解説した比較都市論の書。特に絵や写真を用いて、都市の変遷を知ることができる。第1部の比較都市論は、現在都市が孕む環境や人口などの問題にも触れ、それを歴史的にひも解く。少しまとめにくいのと、値段が高いが...。(佐藤)



2020/9/8,15 SSD（高校3年生）－授業－

リサーチブック改訂

新課題図書－ディスカッショントピック

新型ウィルスの感染拡大の影響が続く中、生徒たちは例年より短い夏休みを過ごしました。いつもならどこかに行った話や、訪ねた先々での環境政策の事情を報告し合うのが通例ですが、今年はそういう訳にもいきません。その中でもこの講座を受講する生徒たちは、この夏にも世界で起こった気候変動がもたらした諸問題について考える機会も多かったことと思います。2学期は引き続き1学期から取り組んでいる新課題図書のプレゼンテーションのためのレジュメ制作、発表原稿制作、そして平行してドイツを中心とした環境政策をまとめたリサーチブックの改訂作業に取り組みます。

●ディスカッショントピックの設定

初回2回の講座では、同じ課題図書を選択した生徒でグループを構成し、プレゼンテーションの準備、そしてそれぞれの図書の内容から皆で議論をしてみたいディスカッショントピックについても考えます。ここではテーマの設定を明確にし、活発な議論から図書の内容をより深く理解し、自他の考えを整理します。そしてプレゼンテーションの準備として内容をまとめる際には、あくまで図書の内容を客観的にまとめることが求められます。どのグループもよく意見を交わしながら順調に作業が進んでいます。



新課題図書 プレゼンテーション・ディスカッション

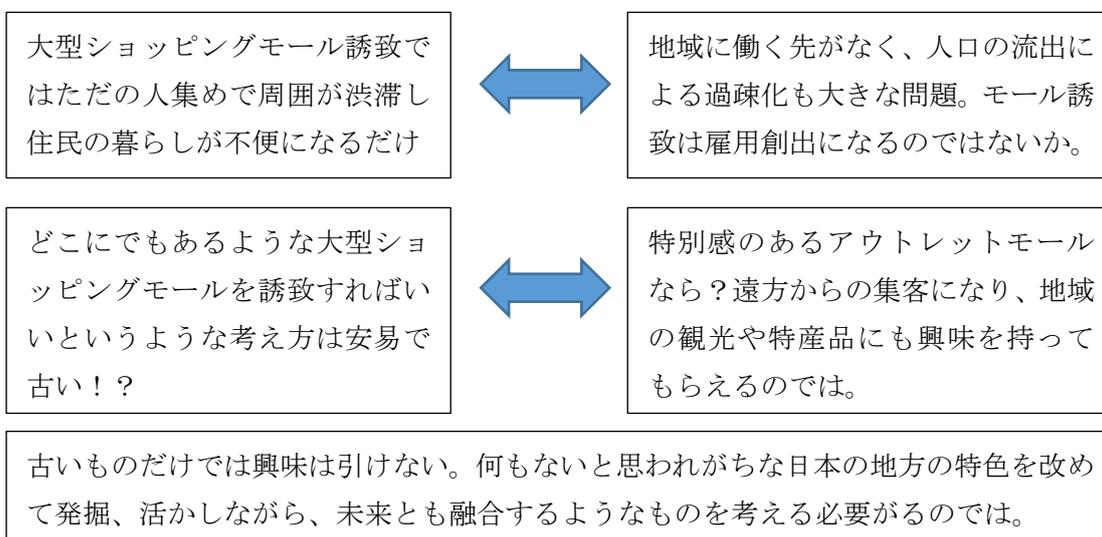
各グループが課題図書を通じて紹介されている街に興味を持ち、理解を深め、自分たちの地元と比べるなどして視野も広がってきました。本日より、内容共有のためそれぞれのグループによるプレゼンテーションが行われます。グループで伝え方の工夫なども凝らしながらレジュメの準備をしてきました。そして各図書ごとのディスカッショントピックについて全体での意見交換を予定しています。発表を聞いた生徒たちはプレゼンテーションシートに、書籍の内容をはじめ、印象に残った政策、持続可能な社会の設計についてのキーワード、感想を記入していきます。

●『スローシティ 世界の均質化と闘うイタリアの小さな町』グループ B

イタリアのスローシティを多く紹介、スローシティの発祥についても。経済を優先させ競争社会の中で発展する都会化や近代化社会とは真逆、自分たち独自の風土や特色を最大限に活かし、古い街の美観、伝統産業を守ってきたことが現在の幸せや生活の質の向上に繋がっている多くの村や街の実例がありました。

ディスカッショントピック

「過疎化の解決策として大型モール誘致か、それとも各街特有の個人店の保護か」



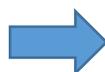
●『ポートランド 世界で一番住みたい街をつくる』Bチーム

世界で一番住みやすい街としても選ばれたポートランド。全米一自転車にやさしい街として、自転車での移動が快適なように整備され、全ての施設等も同エリア内にコンパクトにデザインされました。20分圏内で全て用事が済む機能的な街として **Twenty minutes city** とも表現されます。地域全体でしっかりとしたコンセプトの元、様々な工夫を凝らしながらも豊かな自然を守ったことで地域の価値を高めました。住民はポーターランダーと呼ばれ、自分たちがポーターランダーであることに誇りを持って暮らしています。

ディスカッショントピック

「都市成長を行政がコントロールすることは望ましいか？」

環境問題対策の観点において、一極集中化を避ける必要があると思う。コントロールはその意味で必要。



市民による市民が住みやすい街ポートランドのように、コントロールといってもあくまで市民が中心になって決めることが大切。

街の景観、美しさを保つには、勝手なデザインや場所に建造物を個人が建ててしまうことに対してある程度規制が必要。



既に様々な個人の好みで建築物や家屋が建っている日本では、長期的な計画が必要。観光地でなければ理解を得るのも難しそう。



日本でも、景観や風土を保存し活かすための政策がとられている自治体は数多くあり、様々な街づくりの取り組みを調べてみるのもおもしろいと思う。

●『デンマークのスマートシティ』Cチーム

スマートシティとは、ICTの活用によりインフラの効率化、環境への配慮、持続的成長を可能とする都市です。その1つとされるデンマークの特徴的な政策としては、都市全体の効率性とグリーン成長の同時達成を目的とし、デジタル化や自転車政策があり、オープンイノベーション、トリプルヘリックスやイノベーションラボといった、政府、自治体、大学、研究機関、企業、市民、デザイナーや文化人類学者などあらゆる組織が連携して取り組むことができる仕組みがあることです。課題解決力を育てる教育として「導く教育」が実施され、包括的アプローチから物事を多面的に捉えて多面性の中で解決策を探る方法が取られています。

ディスカッショントピック

「デジタル化に進むことによって、医療情報などの個人情報を一括して管理できる反面、情報管理が難しく、流出や悪用されるリスクもある。このことを踏まえ、デジタル化に賛成か反対か」



デンマークのようなあらゆる意味でコンパクトな国と違い、日本でのデジタル化は難しい。

リスクを取り上げネガティブな意見の声が大きければ、日本では思い切った政策には踏み出せなさそう。

国民が国にビックデータの管理を任せることに不安を感じるのは、政治の不透明さから国が国民に信用されていないことも大きな理由の1つ。信用される政府の体制作りが優先。

●『環境と経済がまわる、森の国ドイツ』

ドイツはどのようにして原発との決別を決めたのか。市民の実感を伴う環境対策、脱原発への道筋を探ります。ベースには国民が受けてきた教育が大きく関係しており、社会教育と家庭教育の両面からエコノミーよりエコロジーの行動を励まし、日常生活でも環境保護意識を身に付けています。そこから各自治体による自発的な環境への様々なそして多様な取り組みが行われています。

ディスカッショントピック

「なぜドイツが日本と違って、環境と経済のバランスをうまく取りながらも、原発に頼らない国としてうまく達成しているだろうか」



日本では原発に投資する企業も多く、反原発は反社会的なイメージ？

ドイツでは小さい頃から環境問題は自分たちの問題としてのマインドセットがされており、きちんと理解したうえで取り組まれている。

前向きに環境政策に取り組むドイツとやらないといけない事として取り組む日本の違い。

ドイツでは小さな自治体でも自分たちで再生可能エネルギーでの自立ができる環境があるが、日本に緒はその仕組みがない。

●『ポートランド』Aチーム

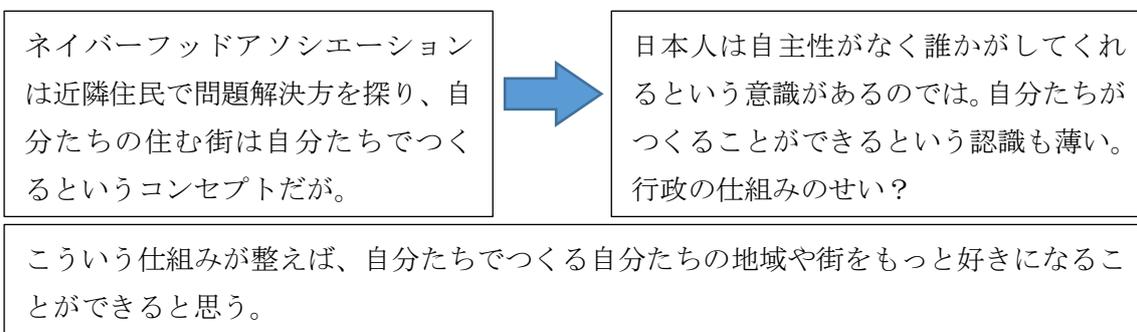
なぜポートランドが注目されるのか。ポートランドはサステイナブルな生活をベンチマ

ークとしている中で一番規模が小さい街です。建物に関するデザインのガイドラインにより街が統一化、そしてダウンタウンを街のシンボルとし 25 のエリアでの都市再建事業により街の活性化が図られました。徒歩 20 分圏内にコミュニティがデザインされ、公共交通や自転車を多く利用する市民が多く、サステイナブルなライフスタイルを重視する人も多いです。ポートランドは都市成長をゾーニングなどによるあらゆる政策でコントロールし、環境保全と都市開発のバランスを保ちながら 40 年かけて作られたコンパクトシティ。現在ではこの街作りを国際事業開発に活かし、グリーンシティの技術の輸出も行います。



💬 ディスカッショントピック

「ポートランドにはネイバーフッドアソシエーションという自治体に住民が積極的に参加しているが、日本でこの自治体を取り入れた場合どのような結果が予測されるか」



● 『ストラスブールのまちづくり』

「住みやすさ」をキーワードに、ストラスブールで行われている総合的な都市整備が進められてきた経緯について説明。自動車中心社会での悪循環の解決から、主にトラム導入により実現した街の活性化の背景と低炭素社会実現に至るプロセスについて解説しています。



【ストラスブールの街づくりを実現させるために】

- ・コンサルタシオン コンセルタシオンは、計画側と市民の意見交換や議論の合意形成の場であり、市民の意見を可能な限り解決し市民に寄り添った都市政策の実現を可能に。
- ・コンパクトシティ
 - への転換 エコシテ・エコカルティエ計画（次世代に残せる環境に優しい住宅エリア作り）として、自然保護と環境への配慮を前提に人口増加に計画的に対応するために始まる。同時に所得の少ない市民にも住み心地の良い住宅の提供を目標とするなど、公共交通や自転車や徒歩でのスムーズな移動を配慮する観点からもコンパクトシティへと転換してきた。

ストラスブールの街作りは、環境に配慮することでも、住民、そして将来の住民の住みやすさを実現させるためのものである。

ディスカッショントピック

「京田辺でエコシテ計画を実施する場合、どのようなことができるか」

京田辺は主要都市を結ぶ中間地点に位置し、どこへのアクセスも良いはず。通過地点だけにならない工夫が足りない。大都市の中継点としての発展の可能性はある。

降りてみたい駅舎、歩いてみたい駅周辺の整備、田畑が多く、整備も困難だという意見もあるが、田畑やその自然を活かす街作りから特色が生まれるのでは。

単なるレジャーパークでは住みよい街にはならない。整備や開発はあくまで住民が住みやすいことが前提。それに惹かれて人が集まる。

●『世界の都市 五大陸 30 都市の年輪型都市形成史』



5大陸30都市の都市計画を、経済、宗教、文化などを含めたマクロ的な視点から歴史をまとめたものです。またそれぞれの都市を統治力、経済力、構築技術の3つの観点から捉え、同心円状に広がる都市の形成過程を30都市のケーススタディをもとに都市構造論としてまとめた都市の辞典。これらの都市の中から文化も市民性も対照的な東京、都アムステルダムを都市プランニングを重点的にまた様々な観点から比較しています。

【アムステルダムと東京】

アムステルダム

人口分散から都市再生へ

戦後人口が増加し、分散政策で人口が郊外へ移った結果、都市中心部に低所得者層や移民の流入し治安が悪化、インナーシティ問題が顕著に。行政主体の都市開発（ゾーニング）によるコンパクトシティ計画を元に、都市機能を再び都市中心部に戻すための再生に取り組む。

東京

一極集中脱却の試み

官公庁が対立する日本の体質が原因で都市改造は民間の開発に遅れ、ツギハギ型の都市交通は麻痺。都市は拡張を続け、雑然とし秩序のない都市構造に。一極集中を促進する大幅な規制緩和措置が行われた結果、臨海地域の国際化と情報化を重点に広範なエリアで乱開発が実施されさらなる問題に。

💬 ディスカッショントピック

「都市の治安悪化や都市コミュニティの対立を考えたとき、人々の住環境を提供する集合住宅のような施設はどこに建設することが望ましいか」

日本で公共の集合住宅の老朽化に伴って、アクセスの良い立地であるにも関わらず空き家が目立ち、ドーナツ化現象が起きている。行政や自治体が一丸となって、既に存在する公共住宅を公平に供給できるよう、また整備し環境を整えて欲しい。そのことで郊外への人口の流出も防げるのでは。

● 『デンマークのスマートシティ』グループ B



スマートシティの定義とは

- ・住みやすさ
- ・持続可能
- ・繁栄の実現

目的：革新的なエコシステムに市民の参加を可能とするしくみを構築し、デジタルソリューションを活用する社会

日本との違い：市民参加とソリューション開発が

自己目的化しやすいことを考慮して、福祉と持続的成長の手段にしていること

デジタルソリューションを基盤とした、スマートシティのビジョンであるフレームワークとしては、デジタル化、包括的アプローチ、人間中心主義そしてグリーン成長の4つ。それぞれを解説し、デンマークの3つの街のスマートシティの取り組みの例を紹介しています。

💬 ディスカッショントピック

「日本では、環境問題を社会保障や経済など多面的に捉えることを優先した包括的アプローチで取り組むべきか、昔からの土地の特長を活かすことを優先して取り組むべきか」

どちらがいいと決めることは難しいが、デンマークのように、その街にあった方法を市民の意見を取り入れて決めていくことができる仕組みを作り上げたい。



古いものを活かす、新しいものを作る時どちらでも、住みやすさ、持続可能、繁栄の実現を目的にしても、全体的な包括的な定義が定まっていなければ納得するものはできない。

● 『スローシティ 世界の均質化と闘うイタリアの小さな町』グループ A

スローシティの大切な面、スローフードとツーリズムについて

スローフードとはファーストフードが広がる世界への対策で、スローシティは本質的には観光に焦点を当てた運動で



はありませんが、この活動により観光客も増えイタリア文化の世界化へととなりました。

元町長は、スローシティの実現のためには法律を作るだけではなく、「少しずつ市民を巻き込みながら、意識を共有すること」が大切だと述べています。

ディスカッショントピック

「大型量販店の進出阻止などの大胆な政策は日本でも実現可能か」



難しいと思う。日本では、市民の要望が伝わりにくい。どうやって伝えていいのかもわからない。行政に任せては、大胆な政策は出てこない。



都市計画やデザインをコンペで募集し、市民により検討、投票する方法で大胆な政策を実現できるのでは？

カルテルノーボで行われた、誤った文化的アプローチだとされた建造物の爆破イベントによる意識の共有を図る政策は、日本では過激すぎて受け入れられないかも知れないが、時にはこういった大胆な政策によって、SNSなどで話題が広がり問題意識を持つという点が必要。



日本では、法律で景観が守られてきた歴史があっても浅いため、既に多様な建造物が密に乱立してしまっていて、景観の統一や美しい景観をとという政策は難しい。逆にそういう状態を活かした街作りができればいいと思う。

● 『デンマークのスマートシティ』グループ A

デンマークの「問題解決能力の育成」や「多様な視点の育成」はデンマークの教育から発展した国民性といえます。スマートシティとして、市民の生活の向上≠街の発展と考え、住みやすさと持続可能性を目的とした繁栄の実現を目指しました。革新的なエコシステムへの市民参加を可能にしたのはデジタルソリューションの活用です。政策の実現には、官民の協力が不可欠となっており、公的機関、大学、研究機関などが動的に連携し問題解決を図るトリプルヘルックスという仕組みがあります。

ディスカッショントピック

「コペンハーゲンのグリーンウェーブといった自転車の利用を促進する政策があるが、京田辺で自転車の利用はどのように増やせるか」



自転車の利用におけるルールや、駐輪場、そしてロードマップなどの周知がまだまだ足りないので、さらなる整備と共にキャンペーンをして、なぜ自転車を利用するのかというような市民の環境や、健康への意識をもっと高める必要があると思う。



自転車を利用したくなるような、意識付けがまず必要。土地がまだ有効利用できる郊外という立地を活かし、気持ちよく、渋滞を避け目的地（買い物や娯楽など）を往来でき、景色もいような自転車専用道路が整備でき、それがSDGsにも貢献することになれば、利用者が増え、それが街の付加価値にも繋がると思う。不可能ではない。

2 学期最後の講座では、プレゼンテーションを行った課題図書を取り組みから、出題し、小テストを行いました。ディスカッションでテーマになったこと、各街の取り組みなどから論述式のテストになりました。

●2 学期の評価の基準

- ・夏休みの課題レポート
- ・プレゼンテーションワークシート
- ・プレゼンとディスカッション
- ・小テスト
- ・リサーチブック改訂完成版
- ・卒論（テーマ/文献・参考リスト/章立て構成まで）



高3の生徒たちは、進路に影響する大切な期末試験を控えながら、他の課題などでも忙しい中で、リサーチブックの改訂ではグループで協力しながら、そして卒業論文では各自のこれまでの学びの集大成としてテーマを見つけ、着実にそれぞれの課題に取り組んでいる様子がとても印象的です。ドイツ・デンマーク研修もキャンセルとなるなど、机上でのリサーチや取り組みも増え、多くのハードワークを通じて、講座全体の一体感も感じます。大きく予定が変わり試行錯誤することもありましたが、教員も生徒達の取り組む姿勢や成果が

ら大きな成長を感じています。この冬休みに生徒達から提出された課題の確認は大変な作業ですが、楽しみでもあります。

高校生活最後の冬休みとなりますが、卒業論文のテーマにも思いを馳せつつ有意義に過ごして欲しいと願っています。そして 3 学期はまた元気な姿でお会いし、いよいよ最後のまとめに取り組みましょう！

2020/09-2021/02 SSD（高校3年生）－授業－

リサーチブック改訂－仕上げ

課題図書のプレゼンテーションに加えて、今まで取り組んできたドイツリサーチブックの改訂の作業もいよいよ終盤を迎え、益々グループワークによるチーム力が付き頼もしい高校3年生です。高校3年生の集大成としての卒業論文制作も加わり、ドイツリサーチブック改訂の作業のまとめに取りかかります。

2学期に各班での改訂作業を全て終了し、3学期に最終的な全体の編集を終える予定です。各班での作業の最新版は全員で共有している Teams に常にアップロードされています。



リサーチブックの提出の最終期限は11月30日です。そこから最終的な調整をして感性の予定です。残された短い期間ですが、内容に関して最終的に注意すべき点は以下の2点になります。

- ・内容の質
- ・構成（意図のある構成になっているか）

役割分担をし各自での作業も多い中、毎回の講座ではグループワークの時間を設け手際よく進めています。春には、現高2生SSR受講生の取り組む改訂版と摺り合わせた上で冊子として改訂版を発刊予定です。



卒業論文制作

この講座では学びの集大成として最後に今まで調べてきたこと、講座を通じて興味を持ったことなどをテーマに、リサーチブックの改訂と並行して、卒業論文の制作にも取りかかっています。基本的な卒業論文の取り組み方から、技術、ポイントなど教員によるアドバイスを受けながら、自分の選んだテーマと向き合っています。

今までのこの講座でのリサーチによる知識を活かしたうえで自身の考えをまとめ、発信できるものにしたいと考えています。自身の経験に基づいたことなど、オリジナリティーも卒業論文の重要なポイントとしながらも以下の順序で制作に取り組み始めます。

①先行研究（本や学術論文）を精読し先行研究リストを作る

今まで何が明らかになり、何が未解決なのか把握する。参考文献から得た情報を一冊のノートにまとめて、あとから見やすく整理しておく。

②データを集める

統計の取り方、範囲、性質には注意を払う。信頼できるものを見極める。特に異なる主張をする場合には、裏付けとなるデータの収集が不可欠。

③卒業論文に選んだテーマから、気になるトピックを3つ選んで下さい。

2学期中に、『テーマ』『参考文献リスト』『論文構成』『先行研究リスト（ノート）』までを仕上げる予定です。

多くの生徒は資料の選出には苦勞しながらも、本校のコミュニケーションセンターを活用し、教員による修正やアドバイスを適宜受けながら「章立て案」と「参考文献のまとめ」を仕上げます。



中間発表を行い予定です。そこでは、全員に自分のテーマ、そしてなぜそのテーマを選んだのか、そして自分なりの結論はどうだったのかについてプレゼンテーションをします。最終的には卒業論文は今学期中には冊子としてまとめます。

2021/01/22,26 SSD

卒業論文のテーマ – 中間発表

- ポートランドの都市政策
- 京都をサステイナブルな街にするためには
- 人口問題との向き合い方
- 日本の人口減少とコンパクトシティの必要性



- ゾーニングが及ぼす街の景観への影響
- 住みやすい街
- 自転車を町で普及させるためには何が大切だろうか
- メキシコ・日本・アメリカ・デンマークの年間労働時間や社会生活と教育の関係の考察



- Happy City
- 経済学の環境問題への利用～エビデンスを伴う環境政策を～
- 自転車の普及のために
- 小さな街を守る



- ショッピングセンターの進出は本当に地元の商店街などが衰退しているのか
- シンガポールのこれから
- 都市における観光政策
- 海洋プラスチックごみの問題と真実



- 建築の観点からみる街のあり方
- 原子力発電
- 京都で公共交通を持続可能的に発展させるために
- SDGs と都市成長について
- フランス全体の交通政策から



- ドイツと中国の国内電力はどのように提供されているか
- 世界のどの環境教育が最も子供に効果的なのか～幼稚園で行われている環境教育を通して～
- 理想的な都市計画：交通政策とコンパクトシティ
- 都市計画制度における中央政府と基礎自治体の会計制の現状と改革



課題の多い3年生であっても、こうしてこの講座でのリサーチブックの改訂と合わせて、卒業論文の制作も中間発表を終えてもう一息で仕上がりそうとしています。生徒達は発言にも取り組みにも自信が感じられるようになりました。環境問題を軸に同じテーマで学んで来た生徒達も、こうして卒業論文のテーマをみると1人1人が違った視点を持っていることがわかります。またそれを自分の言葉で発信できました。これはこのクラスのとて素晴らしい所であり、このクラスの宝物です。

2021/02 SSD (高校3年生)

3年間の学びを終えて

「終わりは、始まり」ともいいます。終わるけれど、始まり！

こうして3年間の学びを終え、確実に1人1人成長したと感じます。大変だったリサーチブックの改訂も卒業論文もやり遂げることができました。

取り組みの成果となる、リサーチブック改訂版、卒業論文は冊子として完成間近です。それぞれ違った観点や感性を持つこの講座の生徒達の進路もまた様々です。皆さんの新しい始まりを心から応援して、そして期待しています！

